

教科名	地理歴史		科目名	地理A
科目の目標	(1) 現代世界の地理的な諸課題を地域性をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う (2) 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人として自覚と資質を養う。			
履修学年	2 学年		学科・コース	工業科
単位数	2 単位		授業形態	一斉学習・作業学習
教科書	高等学校 地理A 新版 世界に目を向け地域を学ぶ(第一学習社) 新詳高等地図		副教材等	
1 学習の目標				
本校では、「地理A」を全員が学び、次のような力を付けることを目標としています。 (1) 世界で見られる諸事象を位置や空間の広がりとのかわりで見出し、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 (2) 資料や写真から、諸地域の地勢や風土の特色を読みとる技能や表現能力を養う。				
2 学習内容と進め方				
(1) 教科書を中心に地図帳を活用しながら、現代世界の特色や世界の諸地域の風土を学びます。 (2) 各単元で情報機材や地図・写真・統計資料などを活用して多角的なものの見方・考え方の学習を行います。 (3) 地理の学習では知識を「覚える」ことも大事ですが、作業を通じて「なぜこうなったのか、どのように変化したのか」「その事を知るためには、どうしたらいいのか」など学習の視点や調査方法を「考える」ことを重視します。				
3 学習の留意点				
次の点に注意して学習すると学習内容に対する理解が深まります。 (1) 授業中に聞いた国名と地名は地図帳で位置などを確認しましょう。(定期考査に出題します) (2) 地理の学習は、文字だけでなく数字や形、色でとらえることが必要です。地図や図表の読みとり、表現する事を大切にしましょう。 (3) 問題意識を持って授業に参加し、ノートには板書事項だけでなく自分の考えたことや感じたことや興味を持ったことをメモするなど工夫しましょう。定期考査前に役立つだけでなく、知識に広がりがあります。				
4 評価の方法				
(1) 定期考査において、「知識・理解」「思考・判断・表現」を中心として、学習の定着度を評価します。 (2) 「関心・意欲・態度」については、ノートや課題提出さらに授業での発言等によって評価します。 (3) 授業中のプリント学習を通じて「資料活用の技能」を評価します。				
5 授業計画				
月	単元	学習内容	評価の観点	考査等
		オリエンテーション		
4	第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	第1章 地球儀や地図でとらえる現代世界	【関心・意欲・態度】 衛星画像や地理情報システムなど新しい地図表現に関心をもつことができる。 グローバル化の中で、人・「もの」・資本の国際関係移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、意識付け学ぶことができる。 【思考・判断・表現】 地球儀の学習を通して、球面に生きる私たち人間の生活を、地域性を考慮しながら、考察することができる。 地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を考えることができる。 国家とは何かをおさえた上で、国際間の人の移動や国際貿易、国家間の結合などが活発化・複雑化していることを地図から読み取ることができる。 【資料活用の技能】 教科書掲載の「ワーク」に適切に取り組み、時差の計算ができる。 正距方位図法を使って、日本を中心とした方位・距離を求めることができる。 さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起きている国境・領土問題について、調べ、現状と課題をまとめることができる。	授業時の作業やノート・課題提出など 授業時のプリント・白地図作業など 定期考査を中心に小テスト <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">この単元を自己評価してみよう A B C</div>
5		1 球面で世界を考えよう 2 世界地図の特徴を知ろう 3 世界観の広がりや地図 4 国家の領域と領土問題 5 国家をこえた結びつき 6 交通機関の発達と縮小する地球世界		
6		7 情報通信で一体化する世界 8 人「もの」資本で結びつく世界		

7
8
9

第2章 世界の人々の生活を取りまく地理的環境
1 様々な環境の中で暮らす人々
2 世界的視野から見た地形
3 さまざまな地形と生活
4 世界的視野から見た気候
5 世界の気候と生活
6 世界の民族・宗教と生活・文化
7 生活・文化を支える産業の地域性

第3章 世界的諸地域の生活・文化と環境
1 東アジア
2 東南アジア
3 南アジア
4 北アフリカ・西アジア・中央アジア
5 中南アフリカ
6 ヨーロッパ
7 ロシアと周辺諸国
8 北アメリカ
9 中央・南アフリカ
10 オセアニアの各地域の暮らしを学ぶ

【知識・理解】
リモートセンシングやGPSなどの役割を理解できる。現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解している。主な国際機関について、歴史的背景をもとに知識として身につけ、最近の動きも理解している。交通・情報・通信手段別に、それぞれの役割や長所・短所を知識として身につけている。世界貿易の形態や課題を知識として持っている。

【関心・意欲・態度】
世界の人々の生活様式について、どのような特徴があるか、興味をもつことができる。日本の自然環境について、世界中で位置づけて、日本の地形や気候などに関心をもって学習することができる。世界の人々もつ民族性や言語、宗教の多様性を理解する。世界の農業・鉱工業について、発達過程を地理的環境との関連で理解し、現在の状況について学習する。

【思考・判断・表現】
世界各地に現象面として現れる自然環境の地域性について、成因とからめとおおまかにとらえ、その地域の産業とも結びつけて考えることができる。各気候帯の雨温図から、その地域の気候の特徴を読み取ることができる。民族性とは、一定地域の地理的環境と深く関連し、長い歴史をとお上りて育まれており、それらを理解した上で、現在発生している民族問題の本質を考察し、レポートなどにまとめることができる。

【資料活用の技能】
教科書に掲載されている民族や宗教に関する図版・写真を適切に使用している。

【知識・理解】
見られる上での見られる生活の特徴や、気候区分ごとの生活の特徴や、知識として身につけている。民族や、世界の言語・宗教の分析を知識として身につけ、民族問題の本質を理解することができる。農業、鉱工業の発達過程を理解し、現在の世界的な分析を知識として身につけている。

【関心・意欲・態度】
世界の人々は、それぞれの地域の環境の中で、どのように生活しているかについて、関心をもつことができる。世界各地の生活と文化を考察して、異文化理解を深めるとともに、他者より尊重し、態度が身につけている。現代世界の政治・経済の激動の中で、人々の生活や文化がどのように変つてきているのかについて、関心をもつことができる。意欲的に学習に取り組むことができる。

【思考・判断・表現】
世界各地での人々の生活は、その地域をめぐると長い歴史や自然環境の影響を受け、この歴史や自然環境が生活・文化にどのように反映されていることと、気候や自然環境が生活と文化を学習することによって、異文化摩擦などが起つてきている現状に気づくことができ、日本の生活、文化を絶対視することなく、

授業時の作業やノート・課題提出など

授業時のプリント・白地図作業など

定期考査を中心に小テスト

この単元を自己評価してみよう
A B C

【1学期期末考査】

授業時の作業やノート・課題提出など

授業時のプリント・白地図作業など

定期考査を中心に小テスト

この単元を自己評価してみよう
A B C

			<p>広い視野から異文化を理解し、尊重することが必要であることを考えることができる。地域が抱える課題や特徴を課題として調べ、結果を話し合うことができる。現代、世界の国際化・情報化の進展などによって、その地域の生活・文化が大きく影響を受けている現実を気づくことが考察することから、人々の暮らしを表現する写真を読み取ることで、営まれている生活の特徴から、自然環境や風土、産業といった生活環境まで見ることが出来る。</p> <p>【資料活用の技能】 教科書掲載の「ワーク」に取り組み、統計データを地図にグラフに表現することができる。新聞やインターネットなどから最新の情報を集め、地域の変化を読み取ることができる。他の地域で暮らす人々の情報を、ガイドブックや雑誌・紀行文、インターネットなどで調べ、異文化理解のために取り組むべき課題を見つけ出すことができる。</p> <p>【知識・理解】 東アジアの自然環境に育まれた生活・文化が、近年の経済成長によって変化していることを理解でき、将来の日本との関係について考察することができる。東南アジアの自然環境や現在の民族・宗教分布とその背景をつかみ、高い経済成長を続ける地域の現状について理解することができる。南アジアの自然環境と生活や、民族・宗教分布の背景をつかみ、その変化について理解を深めることができる。中央アジア・西アジア・北アフリカの地域性をつかみ、パレスチナ問題やイスラム国などの緊迫した情勢について理解を深めることができる。中南アフリカについて、現在まで植民地支配の傷跡が残っていることをつかみ、その対策を理解することができる。ヨーロッパの地域性をつかみ、一体化が進むヨーロッパをEUの取り組みなどから理解を深めることができる。アジアについて、生活・文化と産業などの変化を知識として身につけ、この地域の課題と日本との関わりについて理解を深めることができる。北アメリカの移民社会と多文化社会の特徴をつかみ、ICT産業に代表されるアメリカの先進性について理解している。中央・南アメリカについて先住民と移民、混血の多いこの地域の全体像を知識として身につけ、混血の国ブラジル、白人国家アルゼンチンを具体的に理解を深める。オーストラリアについて、位置関係、自然環境、民族移動の歴史を知識として身につけ、アジア諸国との関係を重視しているオーストラリア・ニュージーランド、太平洋諸島と日本のつながりについて理解できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 人間が直面する地球的課題にはどのようなものがあるか、まずは関心をもつことができる。地球的課題は、地域によって現れ方は異なっており、その地域性に関心をもつと同時に、どの地域性に応じた取り組みを考えようとする態度が身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題などの地球的課題について、地域性をふまえて考察でき、その問題の所在や解決の方向性について、考えることができる。</p>	<p>【2学期中間考査】</p> <p>授業時の作業やノート・課題提出など</p> <p>授業時のプリント・白地図作業など</p> <p>定期考査を中心に小テスト</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>この単元を自己評価してみよう</p> <p>A B C</p> </div>
1 0		第4章 私たちが直面する地球的課題		
		1 地球的課題の地理的な側面		
		2 人口問題		
1 1		3 食糧問題、		
		4 都市・居住問題		
		5 資源・エネルギー問題		
		6 地球環境問題		
1 2		7 地球的課題への取り組みと国際協力		

第2編
生活圏の諸課題の
地理的考察

第1章

- 日常生活と結びついた地図
- 1 地図をもって生活しよう
 - 2 身近な地図を読みこなそう
 - 3 地図表現について考えよう
 - 4 地形図を活用しよう

第2章

- 自然環境と防災
- 1 日本の自然と生活
 - 2 自然災害に備えた暮らし

【資料活用の技能】
各地球的課題について、問題点を抽出し、図書館やインターネットなどで調べることができる。
解決策の具体的について、インターネットや関連団体・役所などから資料を集めることができる。

【知識・理解】
先進国と発展途上国で対照的な問題があることを理解することができる。
食料分配の不平等が飢餓と飽食の地域差の原因であることが理解できる。
発展途上国ではスラム、先進国ではインテリ問題などが現れていることが理解できる。
資源には限りがあり、偏在していることに気づき、世界のエネルギー利用の必要性について考えることができる。
酸性雨・地球温暖化・森林破壊と種の減少・砂漠化を例にあげて理解を深め、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを考えることができる。

【関心・意欲・態度】
身近にあるさまざまな地図を収集して、地図を読むことの楽しさに関心をもつことができる。

【思考・判断・表現】
作業をとおして観光地図や地形図などさまざまな地図を読むことができる。
等高線や地図記号などの読図により、新旧地図の比較を行い、変更点を地図上に表現することができる。

【資料活用の技能】
観光マップや所要時間マップなど、教科書に掲載されている地図を適切に参照することができる。

【知識・理解】
地図は作製者の意図によって描かれていることと描かれていないことがあることを理解する。
新旧地形図の比較から地域の変化を読み取るなど、地形図の有効な利用について理解している。

【関心・意欲・態度】
日本の各地域の生活を、気候・地形などの自然条件から確認していくことに興味をもつことができる。

【思考・判断・表現】
地形と人々の生活とのかわりについて、歴史的背景を踏まえ近代の生活環境の変化に着目することができる。

【資料活用の技能】
教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。

【知識・理解】
自然災害の多い日本列島でも、人々の生活に大きな影響を与える火山災害、水害、地震について、現象やこれまで受けしてきた被害を理解するとともに、先人の知恵と工夫が詰まった災害に備える災害とともに暮らす生活について考察できる。
自然災害に備えるためにはハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解している。

授業時の作業やノート・課題提出など

授業時のプリント・白地図作業など

定期考査を中心に小テスト

この単元を
自己評価してみよう
A B C

【2学期期末考査】

1 2 3		<p>第3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査</p> <p>1 地域調査の方法 2 水とともに暮らすまち「白山市」を考える</p>	<p>【関心・意欲・態度】 地域調査について、なぜ必要なのかを理解した上で、調査の基本をマスターし、積極的に調査を行おうとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 地域調査の結果をGISを使った地図やグラフ化したり、報告書をまとめ、発表したりすることができる。地域調査をとおして、自然災害の多い日本では、災害をいなく工夫をこらしながら人々は生活してきたことを理解する。</p> <p>【資料活用の技能】 地域調査の一環として、的確に資料を集めたり、現地調査を行ったりする。</p> <p>【知識・理解】 地域調査の方法を的確に身につけている。サトマップの読図や統計地図の用い方作業などをとおして身につけている。</p>	<p>授業時の作業やノート・課題提出など</p> <p>授業時のプリント・白地図作業など</p> <p>定期考査を中心に小テスト</p> <div data-bbox="1270 488 1393 573" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>この単元を 自己評価してみよう A B C</p> </div> <p>【学年末考査】</p>
-------------	--	--	--	--

【関】は「関心・意欲・態度」、【思】は「思考・判断・表現」、【技】は「資料活用の技能」、【知】は「知識・理解」をあらわす。